

「人と人とのつながり方について」

突然ですが、登校して教室に入ると自分以外の人間が全員、自分の知らないわからない言葉で話していたら、皆さんはどんなふうに感じますか？

なぜ、そんなことを聞いたかと言うと、実際に自分の国の言葉ではない言葉の中で生活している生徒たちが、この歌島中学校でも生活しているからです。

先日、「ワールドトーク」という行事に参加してきました。そこには、外国から日本に来て生活している中学生が大勢集まります。

そこでは、日本にやってきて自分がどんなことを感じたか、どんなことが嬉しかったのか、どう生きていくのかといった内容のスピーチをしてくださいました。また、自分の国のことをクイズにしたりダンスを踊ったりして交流を深めます。

そこで印象的だったのは、「言葉の壁」がとても大きく生活の中で困難に感じていることでした。

母国の言葉でテストを受けることができれば、もっとできるのにと思っている人がたくさんいました。

気持ちを伝えることが出来れば、もっと友達ができるのにとも感じているようです。

それでも彼らは、友達が声をかけてくれることが嬉しい、先生たちが一生懸命話しかけてくれて、勉強を教えてくれることが嬉しいと言っていました。

この歌島中学校に通ってくれている外国から来た仲間が、どんな気持ちで毎日学校に通ってくれているのか、とても気になりました。

皆さんや先生たちの声掛け一つで彼らの生活や気持ちが大きく変わります。外国から来た仲間だけでなく、いろんな立場の人たちとどのようにつながるのかによって歌島中学校がどんな学校になるのかが決まります。

誰にとってもあたたかい安心できる学校になるよう考えてみてください。